

平成 30 年 5 月 31 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K00721

研究課題名(和文) 外国につながる児童への外国語家庭科ガイドブック作成による生活文化的教育支援

研究課題名(英文) Educational support to non-Japanese Children by publishing multilingual kateika guide books to understand Japanese life style

研究代表者

伊藤 葉子 (Ito, Yoko)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：30282437

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、外国につながる児童への生活文化的教育支援を実践的に実現することを目的とし、小学校家庭科の5年生の最初のガイダンスにつながり、2年間の家庭科学習の見通しをもてるような、日本の生活文化への理解を深められるような家庭科ガイドブックを作成し、その教育的効果を調べた。ガイドブックの日本語版を作成し、中国語・英語・ポルトガル語・フィリピン語へ翻訳し、その教育的効果も明らかにした。また、成果を国内・国際学会で発表した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to develop kateika guide books, which lead to the initial guidance for two-year home economics program starting from the 5th grade at the elementary school level and to facilitate children with non-Japanese cultural backgrounds or heritage to understand Japanese life style. The contents of the book were translated into four languages: English, Chinese, Portuguese and Filipino.

We clarified its educational effectiveness, and presented the research results at domestic and international conferences.

研究分野：家庭科教育学

キーワード：外国につながる児童 家庭科 ガイドブック 小学校 教育支援 生活文化

1. 研究開始当初の背景

グローバル化の進展により、日本語指導が必要な外国人児童生徒数は、27,013人(文部科学省, 2013)であり、該当の学校数は5,764校である。小学校における日本語指導が必要な外国人児童数の母語別在籍状況を見ると、上位3か国語は、ポルトガル語(6,207人、全体の36.2%)、フィリピン語(2,722人、15.9%)、中国語(2,548人、14.9%)であった。新倉(2014)は、教師たちは、これらの子どもたちが、どのような暮らしをしているのかの見立てをして接することが大切だと述べている。日本語指導に関しては、各都道府県・市町村において、専門教員の配置や派遣、教材の作成など、さまざまなレベルで対応策がとられている一方、包括的な生活文化的教育支援についての具体的な方策は見当たらない。日本においては、家庭科が生活科学に基づく知識・スキルを通して、生活文化的価値観を学ぶ機会を与えているが、外国につながる児童生徒にとっては異文化である日本の生活文化を学ぶ際の難しさがあると考えられる。言い換えれば、家庭科の学習こそが、外国につながる児童生徒に、生活文化を実践的に学ぶ重要な機会を与え得る。

そこで、本研究においては、まず、家庭科を初めて学ぶ小学校段階に焦点をあて、5年生の最初の家庭科のガイダンスにつながり、2年間の家庭科学習の見通しをもてるような家庭科ガイドブック(日本語版と4か国版)を作成する。さらに、このガイドブックの活用に関する小学校教員向けの教材開発・研修実施により、実践性・有益性を高めることとする。

2. 研究の目的

本研究は、グローバル化の進展により増加しつつある外国につながる児童への生活文化的教育支援を実践的に実現することを目的とし、次の4点を特徴とする。

1) 小学校の家庭科のガイダンスの役目を果たし、2年間の家庭科学習を見通せるように、同時に日本の生活文化の理解を深めるために、ガイドブックを作成する

2) ガイドブックは、英語・ポルトガル語・フィリピン語・中国語に翻訳し、対象の子どもたちだけでなく、その家庭に対し、家庭科学習や日本の生活文化の理解の促進をはかる

3) 外国につながる小学生を指導している教師を補助するために、このガイドブックに関する研修を実施する

4) 外国語家庭科ガイドブックの教育的効果を、外国につながる小学生やその家庭、教師たちへの質問紙・インタビュー調査により検証する

3. 研究の方法

本研究では、これまでの研究成果から得られた知見を基に、小学校家庭科の5年生の最

初のガイダンスにつながり、2年間の家庭科学習の見通しをもてるような、さらに日本の生活文化への理解を深められるような家庭科ガイドブックの内容案を作成し、対象となる小学生や指導にあっている教師などを対象にヒアリングをし、家庭科ガイドブック(日本語)を作成する。その後、このガイドブックを英語・ポルトガル語・フィリピン語・中国語に翻訳し、需要の多い市町村を中心に配布(一部、郵送)する。

一方で、家庭科ガイドブックの活用に関する小学校教員向けの教材を開発し、その教材を用いた研修(免許更新制研修)を実施する。外国につながる小学生、指導にあっている教師、対象の子どもたちの家庭に対し、質問紙調査・インタビュー調査により、教育的効果を検証する。

4. 研究成果

家庭科ガイドブックの内容素案を作成し、ヒアリングを経て内容を決定し、分担部分の文章を作成した。イラストや写真撮影も終了し、研修のための検討もおこなった。

「家族」として「日本の家族のとくちょう」「家族で楽しむ1年の行事」とした。「食文化」として、「和食のとくちょう」「調理(料理)のための道具」「こんろの使い方/包丁の使い方」「ごはんのみそ汁をつくろう」「卵料理をつくろう」「野菜のためをつくろう」「食品の栄養と献立」とした。「衣文化」として「日本と他の国の民族服」「あたたかい着方・すずしい着方」「きせい服の表示の見方」とし、「住文化」として「住まいと整理・せいとん」「安全な住まい方」とし、「消費・環境」として「家族のみんなにやさしいユニバーサルデザイン」「環境問題をもたらししているもの」「環境にやさしいことをやってみよう」とした。

以下の図1に日本語の目次を示した。



図1 家庭科ガイドブックの目次

また、図2(1)(2)に内容の一部を示す。



図2(1) 家族で楽しむ1年の行事例



図2(2) 住まいと整理・せいとん

家庭科ガイドブックの日本語版を、中国語・英語・ポルトガル語・フィリピン語に翻訳・製本した。

一方で、教育的効果を測るための尺度を開発し、児童にはガイドブック使用前後に実施し(尺度も中国語・英語・ポルトガル語・フィリピン語に翻訳してある)研修の方法についての検討を進め、教師にもガイドブック活用についての研修プログラム前後に実施した。また、インタビューもおこなった。

以下は、児童の実施した尺度の一部である。

自分の考え(かんがえ)にもっとも当てはまる(あてはまる)ものに1つだけ(まる)

を付けて(つけて)ください。

1. あなたは、日本の国(くに)の家族の特徴(とくちょう)を説明(せつめい)できますか。(1のみ回答をつける)

回答:a. できる b. どちらかというところ c. どちらかというところできない d. できない e. どちらともいえない

2. あなたは、日本の国(くに)の家庭(かてい)の行事(ぎょうじ)を説明(せつめい)できますか。

3. あなたは、和食(わしょく)(日本の食事(しょくじ))の特徴(とくちょう)を説明(せつめい)できますか。

4. あなたは、ゆで卵(たまご)の作りかたを説明(せつめい)できますか 略

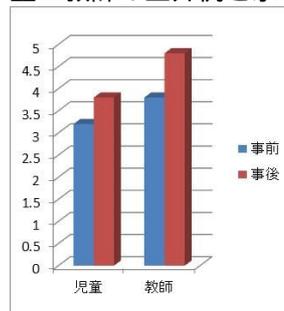
ガイドブックを使用して、自分(じぶん)の考え(かんがえ)にもっとも当てはまる(あてはまる)ものに1つだけ(まる)を付けて(つけて)ください。

1. 日本の家族(かぞく)の特徴(とくちょう)と1年(ねん)の行事(ぎょうじ)(ページ1~3)(1のみ回答をつける)

回答:a. 役にたった b. どちらかというところ役にたった c. どちらかというところ役にたかない d. 役にたかない e. どちらともいえない

2. 和食(わしょく)の特徴(とくちょう)と調理(ちょうり)道具(どうぐ)のつかい方(ページ5~7) 略

アンケートは肯定的な回答を5とし、否定的な回答を1として分析した結果、ほとんどの項目で児童・教師とも上昇した。図3に児童・教師の上昇例を示す。



児童は中国語ガイドブックを使用した67名、教師は研修を受けた102名

図3 日本の家族の特徴と1年の行事

また、インタビューから、気候の暖かい国からきている児童が、「日本の寒い季節を快適に過ごすための着方を知る」ことが示され、他の児童から「清潔な暮らしを支えているそうじの仕方がわかった」という言葉を聞いた。教師からは、何がわからなかったのかかったという回答を得た。

以上のことから、家庭科ガイドブックの教育的効果があることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計10件)

Satomi Izumi-Taylor, Yoko Ito, Chia Hui Lin, Kiyome Akita. A comparative study of American, Japanese, and Taiwanese early childhood

teacher's perceptions of clean-up time. Research in Comparative and International Education. 査読有. 12(2). 2017. 231-242

上野 顕子、星野 洋美、伊藤 葉子、家庭科教育において多文化共生の視点を育てるための課題、金城学院大学論、査読無、13(2)、2017、63-70

Satomi Izumi-Taylor, Yeon Ro, Jihee Han, Yoko Ito. Japanese and Korean kindergartners' perspectives of play using photos. International Journal of Educational Psychology. 査読有. 6(1). 2017. 45-66

Yoko Ito, Satomi Izumi-Taylor, Nianli Zhou. Chinese and Japanese perspectives of fathering Early Child Development and Care. 査読有. 2017. <http://dx.doi.org/10.1080/03004430.2017.1286335>

望月 朋子・河村 美穂、日常生活に結びつく家庭科の学び、埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、査読無、15、2016、39-46

Satomi Izumi-Taylor, Yoko Ito. American and Japanese kindergartners' meanings of play through the use of photo elicitation. Dimensions of early childhood. 査読有. 44(2). 2016. 27-32

河村 美穂、学校での調理実習を効果的に行うために、日本調理科学会誌、査読有、49(2)、2016、377-380

Nishihara Naoe, Yoko Ito, Kyoko Ono. Class practice in primary school about Kasanegi (wearing clothing in layers) for ESD. International Journal of Home Economics. 査読有. 9(2). 2016. 95-106

河村 美穂、家庭科の調理実習で学ぶ大切なこと、日本家政学会誌、査読有、67(5)、2016、297-304

伊藤 葉子、中山 節子、家庭科における ESD 実践のための現職教員向け教育プログラムの開発、日本家政学会誌、査読有、66、2015、351-359

〔学会発表〕(計4件)

Yoko Ito, Miho Kawamura, Akiko Ueno. Educational Effectiveness of multilingual Kateika guide book to understand Japanese life culture. 19th Biennial International Congress of ARAHE. 2017

Yoko Ito. Development of a guide book for learning Japanese life culture. XX IFHE world congress. 2016

Setsuko Nakayama, Yoko Ito, Miho Kawamura, Tomoko Fujita, Naoe Nishihara. A Development of Learning and Training Program for Home Economics Professionals in Asian Regions. 18th Biennial International Congress of ARAHE. 2015

Yoko Ito, Miho Kawamura, Akiko Ueno, Nami Fukutome, Saori Horie. Situation and Educational Problems of Non-Japanese Children living in Japan. 18th Biennial International Congress of ARAHE. 2015

〔図書〕(計3件)

Satomi Izumi-Taylor, Yoko Ito. Springer. Early Childhood Education Policies in Asia Pacific. 2016. 289

Satomi Izumi-Taylor, Yoko Ito. Mc Graw Hill Education. International Perspectives on Children's Play. 2015. 289

河村 美穂、上野 顕子、市民をひらく家庭科、市民をひらく家庭科、2015、214

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 葉子(ITO Yoko)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：30282437

(2) 研究分担者

河村 美穂(KAWAMURA Miho)

埼玉大学・教育学部・教授

研究者番号：00361395

上野 顕子(UENO Akiko)

金城学院大学・生活環境学部・教授

研究者番号：20350952

星野 洋美(HOSHINO Hiromi)

常葉大学・教育学部・教授

研究者番号：50267845